

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学産業生態科学研究所
労働衛生工学研究室
TEL (093) 691-7459
FAX (093) 602-1782
発行責任者：地方会長 田中 勇武

(題字 倉恒匡徳筆)

今まで、そしてこれから ～感謝をこめて～



九州地方会理事 福光 ミチ子

(BOOCS情報センター福岡代表)

これまで日本産業衛生学会、特に九州地方会には、何をさておいても欠かさず参加してきました。それは、私にとってこの会がこの上もなく、楽しく刺激ある場だったからです。参加される方々の研究発表をお聴きし、さらに交流を通して自分の日々の仕事への取り組みを客観視することで自己評価し、充電する機会でした。特に、九州地方会は全国代表となられる学識・経験豊かな諸先生が多く、より新しい情報が得られ、私自身の仕事への活力源となりました。

2001年に日本産業衛生学会九州地方会の学会を引き受けた経験は、私たち看護職にとって、とくにその学会長となった私にとっては、この上もなく大きな体験でした。それは、当時地方会会長であった大久保利晃先生が産業看護職に投げかけられたことだったのですが、今になって思えば、看護部会が大きく活性化する機会となったのです。信頼して投げかけてくださったことに応えたいという強い想いとなり、看護部会そのものが一致団結したのです。以来、看護職間の積極的、前向きな交流が始まり、役員会も意義深い活動を続けることができ、現在の地方会会員数は全国3位にまで発展する機縁となりました。幾重にも諸先生方やその時のメンバーに改めて感謝したい気持ちで一杯です。

現在、私自身は企業の看護職の立場ではないのですが、某組合との関わりは切れることなく続いています。それは、職員を健康日本一にすることを目指した健康対策への賛同と、九州大学名誉教授の藤野武彦氏(当時九州大学健康科

学センターの助教授)が提唱されたBOOCS(脳指向型自己調整システム)との出会いがあったからです。平成5年より組合員にヘルスセミナー(Relax and Refresh・Slow and Relax)を開催し、その結果について、現在は九州大学教授である馬場園明氏が、その当時「世界にもない絵に描いたようなデータである」と言われたほどの効果がみられました。

BOOCSの手法は、国のマニュアルとは相反する感があり、その当時は大きな戸惑いがありましたが、従来の手法では、人の健康行動を変えることが難しく感じており、BOOCSとの出会いによって、私の行動は大きく変化することになりました。それは新しいことにチャレンジするに値するコンセプトであり、それを実行に移し、いきいきと変わって行く人々を目の当たりにし、協賛者も広がり県外企業でも実施されるようになって来たことで勇気づけられ15年目を迎えることができました。

又BOOCSはダイエット法として知られていますが、自己変容出来る手法であり効果も大きく、今注目されているうつ症状やメタボリックシンドロームを改善していくことに適した手法であることを改めて痛感しています。平成20年からの特定保健指導に向けてのプログラムとしてBOOCSがもっとも有効なものになるのではないかと確信しているところです。

今後とも地方会に参加しながら、一人でも多くの方が自己に気づきこのコンセプトが広がっていくことを念じています。

地方会長あいさつ

2009年第82回学会総会を福岡で

地方会長 田中 勇 武
(産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学)

昨年12月の本部理事会において、九州地方会主管で第82回学会総会を開催することが決定されました。2009年で遠い未来の事と思っていましたが、開催会場だけは、決めておこうと、開催できる場所を当たってみると意外に少なく、福岡の国際会議場がありました。さらに、開催時期である2009年4月か5月ということで探してみると、既に予約が入っており、4月の連休前と5月の後半の週だけが空いているという返事でした。そんな先まで、スケジュールが詰まっているのかと、驚いた次第です。開催期日も5月20日～23日と決まりましたので、後、運営体制ができあがれば、一段落となり、ほっと一息つけます。このため、6月の地方会学会と同時に開催された理事会において、大枠の運営体制案について議論していただきました。引き続き、代議員懇談会や総会においてもこれらを報告し、ご協力をお願いしたところです。

開催場所、開催日程、運営体制案ができあがり、建物で言う骨格ができあがりまして、後は、どのような部屋をつくるのかインテリア設計が残っています。総会学会に必須の項目は、代議員総会、各賞講演であり、後は自由設計ですが、伝統と継続の問題もあり、ほぼ前回踏襲ということに落ち着くのではないかと思います。そうすれば、何で九州地方会が世話をするのか、意義が見えてきません。学会総会を開くことによって、九州地方会が活性化することを、じっくりと考える必要があります。

別掲に、82回総会の開催日程を示すと同時に、総会学会の内容に関するアイデアの募集をしています。開催までのロードマップを考えると、最初が、メインテーマ案とポスター案です。9月末を目途に、アイデアをいただき、年末に開催予定の企画運営委員会で決定したいと考えています。次は、特別講演、シンポジウム等のテーマと講師の人選です。来年度の地方会総会（学会長：川本俊弘教授、場所：産業医大ラマツィーニホール、日時：7月18日～19日）には、たたき台を示せるようにしたいと計画しています。さらに、来年9月には、最終企画書を作成し、演題募集を開始し、本番に向けて、一步一步進めていく事を考えています。

2000年、九州地方会で開催した総会（大久保利晃企画運営委員長）では、九州地方会会員の総力を結集した結果、北九州市において、大成功のうちに開催できました。しかし、時代の流れで、本業専念の徹底から、中々学会運営について、援助したくても、出来ない状況が生まれています。このため、今回の総会学会では、学会員の皆様の多大なご支援によることはもちろんですが、どうしても外部委託も入れた学会運営になりますことを、予めお断りすると共に、深くお詫び申し上げます。

まだ、頭の中では、2009年は先の事としておりますが、時間と共に、徐々に松明の灯りを高く掲げていこうと、覚悟を決めつつあります。

会員皆様のご支援を切にお願いする次第です。

受賞のことば

『日本産業衛生学会 学会賞』を受賞して

川本 俊 弘
(産業医科大学 医学部 衛生学)

4月25日(水)大阪で開催された第80回日本産業衛生学会において、日本産業衛生学会賞を受賞しました。この賞は「永年にわたる真摯な研鑽によりすぐれた研究業績を挙げ、日本産業衛生学会の発展充実に貢献の著しい本学会会員を顕彰することにより、わが国の産業衛生学領域における学問水準の飛躍的向上を図ること」を目的としており、過分なご評価を頂いたことに大変恐縮しております。これも一重に九州地方会の先生方のご指導のお蔭と感謝申し上げます。

私は労働者の生体試料中の化学物質やその代謝物などを測定して当該化学物質の曝露を推測する「生物学的モニタリング」について長年にわたり研究を行い、なかでも尿中代謝物が遺伝子多型による個体差の影響を受けることを検討してまいりました。日本人の約半数はアルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2) が先天的に欠損し、飲酒により顔面紅潮・動悸などのフラッシングという症状を起こしますが、このALDH2欠損とトルエン作業者の尿中馬尿酸値との関係を世界で最初に検討しました。また、約4%の日本人では、ニコチンを代謝するチトクロムP450 2A6 (CYP2A6) が遺伝的に欠失しており、ニコチンからコチニンへの代謝がほとんど行われないことも見出し、これをCYP2A6遺伝子多型の判定に基づく職域禁煙サポートへと展開しております。さらに、ベックマン研究所のDr. Yoshidaおよび九州大学生態防御医学研究所の中山敬一教授の協力により、Aldh2 (ヒトALDH2に対応) ノックアウトマウスを作製しました。その後、このAldh2ノックアウトマウスがALDH2欠損者のモデル動物として有用であることを実証し、現在では日本のみならず米国・ドイツ・韓国の14大学・研究機関とこのマウスを用いた共同研究を進めています。これらの研究結果は職域におけるALDH2欠損者の健康管理に大いに役立つものと期待しております。

また、昭和63年の鉛則と有機剤の改正により始まった生物学的モニタリング(鉛・有機溶剤に係る生体試料検査)では、測定法の統一や外部精度管理に関して指導的役割を果たし、生物学的モニタリングのスムーズな現場運用に尽力してまいりました。さらに教育面では、今までの産業医学に関する経験や米国認定トキシコロジスト (DABT) の資格を生かし、多くの日本産業衛生学会専門医・指導医育成のお手伝いをさせていただいております。

今回の受賞を励みに産業医学の研究、産業衛生現場での活動、そして産業衛生教育に邁進し、九州地方会の発展に尽力したいと思っております。益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



受賞の様子

(平成19年4月25日(水)大阪国際会議場にて)

研究紹介・学会報告

平成19年度日本産業衛生学会九州地方学会を開催して

青 柳 潔

(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 公衆衛生学分野)

本年度の九州地方会学会は平成18年6月29日(金)・6月30日(土)の両日、長崎で開催されました。梅雨時で天候が心配されましたが、何とか天気ももち、学会参加者は2日間で約120名に達し、準備したプログラムを滞りなく終了することができました。これもひとえに田中勇武地方会長はじめ、地方会会員の皆様のご協力の賜であり、この場を借りて心より御礼申し上げます。

一般演題(口頭発表)は14題でした。作業環境管理、作業管理、健康管理および労働衛生管理体制に関する基礎的内容から現場事例など広範囲にわたるものでした。発表が一会場のみだったのですが、一般演題の数が通常より若干少なかつたため、発表討議の時間は比較的確保できたと思っています。演者および各セッションの座長の先生方のご協力に感謝します。しかし、日常業務では、その活動が特定化しやすくなる中、多くの会員にとっては、このように幅広い範囲の発表に触れる機会があるのも地方会ならではの、今後も是非継続してもらいたいと思いました。

1日目の教育講演は永田耕司(活水女子大学健康生活学部)教授をお願いして「職場のメンタルヘルス」の演題でお話頂きました。最近の職場ではメンタルヘルスに関する相談も増えてきており、一般産業医および看護職の対処法等を事例とともに説明下さり、実際の活動に役立つ内容でした。

懇親会は会場を大学近くのホテルにしたため、移動に不便なところでありましたが、事務局の予想を超えて60名以上の方に出席していただき大盛況でした。準備した料理やお酒は充分とはいえませんでした。会員同士の意見交換や懇親は充分にできたのではないかと事務局として大変嬉しく思いました。

2日目の教育講演は伊達豊先生に「過重労働からみたメタボリックシンドローム—職域と地域の交差—」を、本田純久先生には「産業医による調査研究企画法」についてお話して頂きました。これは同時に医師会の認定産業医の研修対象であったため、約50名の医師会の先生方も参加されました。伊達先生からは、メタボリックシンドロームのメカニズムの概説から、特定健診・特定保健指導について職域と地域の立場から包括的に説明頂きました。これから本格化する特定健診・特定保健指導における実践的な内容を含んでおり、有意義なものでした。本田先生からは、基本的な疫学的手法の解説から、産業保健活動で得られたデータの取り方、読み方、解析法等のお話があり、これからの研究活動に役立つものと感じました。

最後になりましたが、代議員懇談会や総会を2日目の一般演題終了後に組み込んだり、懇親会会場が離れていたことなど地方会運営上の不備があり、会員の皆様にはいろいろご不便をおかけしましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

産業保健情報システム研究会の活動

八 幡 勝 也

(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

産業保健情報システム研究会は、1994年に情報化の推進に伴い産業保健分野での情報化の支援を目的として設立されました。

この13年間に、インターネットが急速に普及し、あらゆる情報がデジタル化しました。本研究会もそれに伴い様々な活動を行いました。

当初は、産業保健関係の情報の利用についてのホームページやメーリングリストでの情報交換で始めたのですが、その後のインターネットの広がりにより活動範囲が変化いたしました。

まず、1995年産業衛生学雑誌のホームページを開設し、目次情報の提供を開始しました。翌1996年には英文誌 Journal of Occupational Health の創刊とともに全文参照可能なサイトを構築しました。2004年3号より日本語論文も参照可能となりました。

また、許容濃度の勧告の英語版も公開しておりまして、こちらの方では日本における産業保健情報の提供として広く利用されています。この情報提供は非常に利用されておりまして、現在では1日あたり、ホームページ参照は800件、論文のダウンロードは1,500件となっています。

その後は、産業保健における遠隔教育、特に国際的な遠隔教育を手がけ、現在に至っています。遠隔でのweb授業、衛星通信を用いた国内の遠隔授業への協力、フィリピン、マレーシア、台湾、シンガポールなどと結びセミナーや定期的な講義の支援を行いました。これにより、国際的な専門家間の交流と共に、専門家教育システムの構築に繋がり、産業保健分野の国際化に貢献出来るのではないかと思います。

平成16年頃より産業保健と地域医療の連携システムおよびそれに関連して、個人情報保護に取組みました。これに関連して、「産業保健版 個人情報保護と活用の手引き 働く人の健康情報活用法」法研 の出版に協力しました。

平成17年より健康診断情報のデータ解析とデータ利用の検討に繋がり、さらに診療報酬との関連づけなどを検討しております。

これが、平成18年からは特定健康診断の導入と結びつき、当研究会でも地域と職域の連携の検討、データ利用や解析の検討および産業保健現場での実践の際の課題について検討を行っております。

以上のように、産業保健分野における情報技術の導入や産業保健ニーズからの情報技術の利用について活動を行って参りました。

最近では特定健康診断に伴う特定保健指導でも電子メールの活用が導入されるなど、産業保健分野での情報技術の活用はさらに広がるものと予想されます。本研究会では様々な情報技術の導入の産業保健現場への導入を行う際の課題や実際的な利用方法および新たな産業保健の像の構築に貢献したいと考えております。

また、今後は進んだ情報技術が作業員および社会に与える影響なども視野に入れて活動していきたいと考えております。

第18回日中韓産業保健学術集談会 開催される

森本泰夫、東 敏昭

(産業医科大学 産業生態科学研究所)

第18回日中韓産業保健学術集談会が、5月20—22日にかけて名古屋国際会議場にて、中部大学の城 憲秀教授主催のもと開催されました。本集談会は、産業保健分野に関する学術的、人的交流と相互親善を行い、産業保健衛生の向上に資することを目的に設立され、現在では3ヶ国の持ち回り開催を行っています。本会議を運営する日本側代表は大久保利晃氏(放射線影響研究所理事)、事務局が東敏昭氏(産業医科大学教授)、韓国の代表はByun Soo Choi氏(大韓産業保健協会会長)、事務局はSe-Hoon Lee氏(カソリック大学教授)、中国は代表と事務局をWang Sheng氏(北京大学教授)が兼務しています。参加者は、毎年増加しており3ヶ国併せて300名になり、総演題数も130になりました。

オープニングでは、大会委員長である城氏が、大型スクリーンを用いて、社会発展に伴い、産業保健の重要性が増大することをメッセージとして伝えました。

基調講演に関して、日本では、日本大学の城内氏が、世界共通の化学物質の安全有害性表示ラベルであるGHSの日本における対応について、韓国のSoonchunhyang大学のWoo先生が韓国における産業保健に関する国家レベルで取り組み、特に筋骨格系疾患におけるワークショップを介したアクションプログラムの作成について、中国からは代表でもあるWang教授が、中国における座作業における職業性筋骨格系障害解明の研究について講演が行われました。

特別講演としてILOの井谷徹労働者保護局長より、産業保健に関するILOの活動や動向について詳細に講演しました。また、限られた人材や資金の中でいかに有効な活動するかを新たな課題とし取り組んでいることも報告されました。国際的な産業保健の動向を知る上では非常に貴重な講演でした。

大会に先駆けて行われたワークショップでは、日本の代表として筆者が会の運営に携わりました。テーマは、職業性筋骨格系障害であり、日本から3演題、韓国から1演題、中国から1演題が発表されました。日本産業衛生学会における研究会を介したアクションプログラムの作成、負担や生産性を考慮したVDT workstationの取り組み、看護負担における国際間の比較、自動車製造プロセスにおけるハザードやリスクアセスメントの手法の紹介、動物試験によるSODの筋傷害抑制と筋再生の亢進作用が報告されました。本ワークショップは、3年間、同一のテーマで行い、

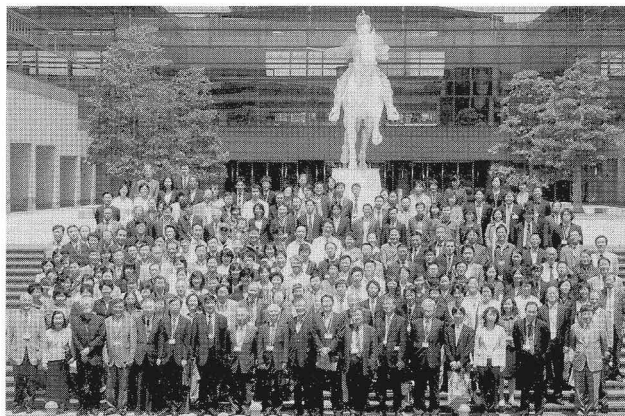
2005年より開始したので、今回は最終年となりました。この間、調査報告、介入研究を含む疫学研究、動物実験、国の施策に関する研究、負担軽減のツールの開発などバラエティに富むものでした。これらの発表を踏まえると、職業に起因する筋骨格系障害には、複数のリスクファクターが存在し、国により多少の生活様式や習慣の違いはあるも、それらを総括的に捉え、総合的な対策が必要であることを感じました。

シンポジウムでは、産業保健における一次予防の強化として5演題が発表され、日本からは、大和浩氏(産業医科大学)が職場での有効なTHP活動について、伊藤昭好氏(産業医科大学)がPlan-Do-Check-Act (PDCA) サイクルを用いた労働安全・衛生活動の5日間トレーニングコースに関する報告が行われました。

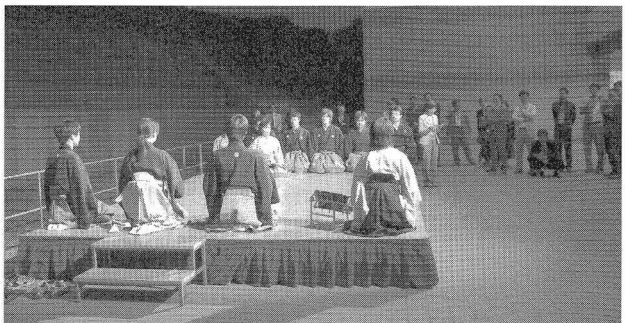
ポスターに関しては、18セッションにわかれており、各セッション4—8演題がありました。発表内容において、化学物質のハザード・リスク評価、石綿の健康影響、中小企業の産業保健活動、職業関連疾患、メンタルヘルス、労働負荷評価ツールの開発、様々な産業保健対策など多岐にわたりました。座長とともにポスターを回るポスターディスカッションが行われ、あちこちで討議に盛り上がりを見せていました。

懇親会は国際会議場内のカフェテリアで行われました。若手能楽師による謡曲が披露され、日本の文化や食事を堪能しました。また、ポスター優秀賞の発表があり、各国1名ずつ選ばれました。その後のカラオケパーティは、いつものように盛り上がり、時間の経つのも忘れて熱唱していました。

本集談会は、参加人数も着実に増加し、3カ国の学術的交流が活性化、東アジアにおける産業医学交流の拠点となることが期待されます。さらに、文化交流を展開していくことも検討中であり、さらに楽しめる集談会へと進化しつつあります。来年は、中国蘇州市で開催される予定です。是非、皆様の多数のご参加を期待致したいと思います。



集合写真



懇親会にて



オープニングセレモニー

部 会 報 告

◇産業医部会◇

九州地方会産業医部会活動報告

産業医部会長 市場 正 良
(佐賀大学医学部)

平成15年に九州地方会産業医部会が正式に発足し、健康管理研究会を引き継ぐ形で活動を始めています。日本産業衛生学会員で産業医をされている方が学会の産業医部会に入会されますと、自動的に地方会産業医部会会員となる仕組みです。現在、九州地方会では80数名の参加を頂いています。平成19年度より、藤代部会長から、地方会担当理事として私が部会長を引き継ぐこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

活動は年1回の総会と秋に研修会(健康管理研究会として開催)を行っています。今年度の総会は6月29日に長崎での地方会学会の際に、自由集会として開催しました。役員改選の承認と秋の研究会の企画について話し合いました。

秋の研究会は12月1日に福岡産業保健推進センターで開催予定です。平成20年度から特定健診、特定保健指導が導入されるということで、18年度は特定健診に関するパネルディスカッションを産業医学推進研究会九州地方会と共催で行い、多くの方の参加を得ました。今年も引き続き特定健診に関して産業医として必要な知識を整理し問題点に関しての議論ができればと考えています。講師として、法の制定に関わってこられた産業医大の堀江先生から労働安全衛生法と特定健診、特定保健指導の関係における問題点をお話いただく予定です。また、特定健診、特定保健指導のデータ管理ためのコンピューターシステムの紹介についての講演も予定しています。詳細は、現在検討中ですので、決まり次第お知らせしていきます。医部会員以外の方の参加も歓迎します。

地方会部会の運営上、まだ整備しなければいけない問題もあります。今後とも地方会、地方会看護部会、産業衛生技術部会との協力しながら発展していければと考えています。

地方会産業医部会事務局：佐賀大学医学部社会医学講座内
(担当：松本)

TEL：0952-34-2289

E-mail:matsumoa@cc.saga-u.ac.jp

◇産業看護部会◇

産業看護部会活動報告

産業看護部会会長 日笠 理 恵
(福岡県市町村職員共済組合)

九州地方会産業看護部会では、先日6月30日(土)の九州地方会学会終了後に総会を開催し、平成18年度の活動報告を行い、平成19年度の活動計画について承認いただきました。

平成19年度は、教育研修として九州地方会主催の産業看護講座実力アップコース第4回を9月29日(土)に福岡県メディカルセンターにおいて行います。今回は、「働く人の腰痛予防対策-その知識と実践-」「VDT作業における産業看護戦略-健康障害の予防と快適職場設計-」「必修『改善』のノウハウ-作業分析技法と適正作業条件の設定-(講義、演習、グループ討議)」といったテーマで、講師を神代雅晴先生(産業医科大学)、三澤哲夫先生(千葉工業大学)、岸田孝弥先生(中京大学)ならびに松田文子先生(武蔵野大学)にお願いしております。それぞれ作業管理・作業環境管理に関連した継続教育認定単位を取得する予定です。また、産業看護研究会は12月初旬を予定しており、企画が決まり次第ご案内いたします。他にも必要に応じて継続教育システムの単位認定研修を随時申請していきます。

広報としては、上記研修の情報や部会からのお知らせなどを会員にメールやファクシミリにて配信するとともに、部会ニュース「ふおねつと」を年2回発行します。すでに部会総会に合わせて第10号を発行しました。これらの活動を現在12名の役員が年6回以上の役員会で協議しながら運営します。

加えて、全国の部会における今年度の活動方針を紹介します。例年どおり3部会との連携、全国協議会の開催、産業看護講座基礎コースや実力アップコースの開催や継続教育手帳更新手続きの推進、部会報「産業看護フォーラム」の発行、研究活動、ホームページの充実等がありますが、特に今年度は2つの取り組みがあります。1つは昨年度より産業看護職の法制度化を検討するワーキンググループに産業看護部会幹事が参加しており、今年度は意見をまとめる段階に入っています。もう1つは、平成20年2月23日(土)~24日(日)に東京お台場で第1回アジア産業看護学術集会「これからの産業看護活動」-グローバルな視点で考える-が開催されます。自主対応型の産業保健活動における産業看護職としての支援について、アジア諸国の産業看護職と意見交換するという企画です。

これら全国の部会の幹事会には九州地方会部会役員の中から3名(日笠【広報担当】、西さん：朝日新聞健康保険

組合【総務担当】、住徳さん：アサヒビール(株)【教育担当】)が幹事として参加しております。九州地方会と併せて全国の活動についても、ご質問ならびにご意見がございましたら幹事や九州地方会役員までお寄せ下さい。

そして、平成21年度には九州地方会の企画運営で第82回日本産業衛生学会が開催されます。産業看護職としてのアイデアや協力が求められると存じますので、今後の活動について積極的なご参加を期待しております。



◇産業衛生技術部会◇

産業衛生技術部会の現況

産業衛生技術部会幹事 保利 一

(産業医科大学 産業保健学部 第1環境管理学)

産業衛生技術部会は年2回、春の学会と秋の全国産業安全衛生大会に合わせて技術部会の大会を開催し、産業衛生技術に関するさまざまな話題を提供しております。次の大会(第16回)は平成19年11月7日の午後に神戸国際会議場で開催されます。テーマは「各業種におけるリスクアセスメント」として、自動車業界から、深堀秀治氏(本田技研工業(株)安全衛生管理センター所長)、化学業界から、橋本晴男氏(エクソンモービル(有)医務産業衛生部アジア太平洋地区産業衛生アドバイザー)、鉄鋼業界から渡辺邦明氏((株)神戸製鋼所人事労政部担当部長)、建設業界から林利成氏(元(株)大林組東京安全研究所所長)の4名にご講演をいただく予定です。また、当日は、午前中(10:00~12:00)に第6回産業衛生技術専門研修会も開催されます。関心のある方は技術部会員以外の方でもお気軽にご参加ください。詳しくは産業衛生技術部会のホームページ(<http://jsoh-ohe.umin.jp/>)をご覧ください。

九州地方会の活動としては、毎年産衛九州地方会の自由集会で技術部会九州地方会を開催しております。今年は6月29日に長崎大学で開催し、産業医科大学産業生態科学研究所の明星敏彦先生に「ナノ材料のリスクアセスメント」

と題して講演をしていただきました。雨模様の天候のなか、懇親会終了後に懇親会場から技術部会の会場まで坂を上っていかねばならなかったため、参加者が少ないのではないかと心配しましたが、前年同様18名の参加があり、活発な討論が行われました。

平成18年に労働安全衛生法が改正され、労働安全衛生マネジメントシステムを導入する事業場が増加しつつあります。現場におけるリスクアセスメントを自主管理で進めようとする、欧米のインダストリアルハイジニスト(IH)またはオキュペーションアルハイジニスト(OH)に相当する人材が必要になってくると思われます。前回、(社)日本作業環境測定協会がIHと互換性のある資格の認定を目指した教育カリキュラムとそのためのテキストを作成していることを述べましたが、テキスト(化学物質のリスクアセスメント・リスクマネジメントハンドブック)については5月に完成し、今年度からこの本を用いて実際に教育を始める準備を進めております。また、日本労働安全衛生コンサルタント会も、コンサルタントを対象とし、IHを視野に入れた生涯教育を行っております。産業衛生技術部会では、設立当初から、わが国にもIHが必要であるとの認識から、産業衛生学雑誌に連載したシリーズを単行本として出版するとともに、研修会を開催し、産業衛生技術に関する教育研修を行ってきましたが、今後の活動については、これらの組織体との関係も考慮しながら進める必要があると思います。

◇産業歯科保健部会◇

産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 井手 玲子

(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学)

産業歯科保健部会の発足から7月ではや一年を迎えました。現産業歯科保健部会長の(株)神戸製鋼所の藤田雄三先生を中心とした準備委員会のメンバーで相談しながら部会設立の準備をすすめたことも今は懐かしく思い出されます。職域に関わる歯科保健関係者だけの尽力では、このようにスムーズな部会発足は到底なし得ることはできませんでした。様々な場面でご協力ご助言頂いた皆様に産業歯科保健部会関係者一同厚く御礼申し上げます。

第80回日本産業衛生学会では、産業歯科保健部会設立記念フォーラムが開催され、(社)日本歯科医師会会長 大久保満男氏から「新たな産業歯科保健への展望」、(社)日本歯科衛生士会会長 金澤紀子氏から「産業歯科保健活動における歯科衛生士の役割」、愛知学院大学歯学部教授 中垣晴男氏から「産業歯科保健と歯の健康づくり(口腔衛

生学の立場から)」、(財)ライオン歯科衛生研究所副理事長 片倉豊樹氏から「産業歯科保健活動の期待される役割と展望」、産業歯科保健部会副会長 日本アイ・ビー・エム健康支援センター 加藤元氏から「産業歯科保健部会の今後の展望」というタイトルでご講演を頂きました。各々の演者の経験やスタンスに基づいた講演内容は説得力があり、実学を重んじる産業衛生学会ならではのフォーラムであったと感じました。引き続き開催された職域口腔保健研究会では、(財)ライオン歯科衛生研究所 武井典子氏から「肥満と咀嚼の関連性」、日本歯科大学東京短期大学歯科衛生士学科 福田雅臣氏から「2色ガムから見えてくる歯科保健活動」、東京歯科大学社会歯科学研究室 石井拓男氏から「医療制度改革と産業歯科保健活動」というタイトルでご講演を頂きました。2色ガムの体験もあり管理栄養士など食に関わる職種の方も興味深く参加されていたようです。

日本歯科医師会は昭和47年の労働安全衛生法成立の翌年から現在まで産業歯科医研修会等を開催しており、労働衛生コンサルタントの資格を有している歯科医師も400名を超えております。産業歯科保健部会の前身ともいえる「職域口腔保健研究会」は、産業衛生学会時を含め年に2回その時期のトピックをテーマに研修会を開催し、参加者も回を重ねるごとに増えて参りました。今後、産業歯科保健部会では、望ましい形の産業歯科保健活動の具現化、産業歯科保健に携わる専門職の職能向上、学術的活動の組織化を目指し、全国集会の開催、調査・研究および情報の収集・分析、研修・教育、広報活動などに取り組んでいく予定です。

産業歯科保健部会は、歯科専門職のみならず部会の趣旨に賛同した会員が会し積極的に活動するためのコミュニケーションポートです。産業保健部会入会手続きは、日本産業衛生学会ホームページ→【部会コーナー】産業歯科保健部会→入会フォームに入力後、送信 で完了です。部会費は当面徴収しません。皆様のご入会をお待ち致しております。



研究会・研修会その他案内

第7回分子予防環境医学研究会 日本産業衛生学会 第35回有機溶剤中毒研究会 日本産業衛生学会 第37回生物学的モニタリング・ バイオマーカー研究会 室内環境学会第1回九州支部総会 第9回Aldh2ノックアウトマウス学会 合同学会のご案内

【プログラム】

10月26日(金) 開会12:30

◎ 特別講演

「小型魚類をモデルとした神経発生研究」

講師 山口県環境保健センター

所長 調 恒明先生

座長 産業医科大学医学部衛生学講座

教授 川本俊弘先生

◎ シンポジウム

テーマ「産業化学物質と分子予防」

◎ 懇親会 18:00

A I M 2階「フラミンゴカフェ」

10月27日(土)

◎ 一般講演 9:00~17:00

【会場】 西日本総合展示場新館/A I M 3階中展示場会議室
福岡県北九州市小倉北区浅野3-8-1
JR小倉駅北口からペDESTリアンデッキ
(動く歩道)で5分

【大会参加申し込み】

- ・当日ロビーにて懇親会参加を含め、受付をいたします。
- ・参加費は、当日受付にていただきます。領収書は受付にて発行いたします。
- ・詳細は事務局までお問い合わせ下さい。
- ・大会参加費：参加費 2,000円
懇親会費 4,000円

【主催】 産業医科大学医学部衛生学講座

【共催】 日本衛生学会

【後援】 日本産業衛生学会九州地方会

【お問い合わせ】

世話人：川本俊弘 事務局長：小山倫浩

事務局：産業医科大学医学部衛生学講座

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医学生ヶ丘1-1

TEL:093-691-7429 FAX:093-691-9341

e-mail: g-eisei@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

第19回中韓日産業保健学術集談会のご案内

学会名：第19回中韓日産業保健学術集談会

会期：2008年5月18日(日)～20日(火)

開催地：中国蘇州市

参加登録費：一般 US\$150 学生 US\$75
同伴 US\$60

学会長：王 生 Wang Sheng (北京医科大学教授)
Dept.of Occupational and Environmental Health
Peking University Health Science Center Beijing,
100083 China
Tel: +86-10-8606-5575 / Fax: +86-10-8280-1533
E-mail: ckj19@bjmu.edu.cn

日本事務長：東 敏昭
(産業医科大学産業生態科学研究所 所長)
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
Tel: 093-691-7470 / Fax: 093-601-2667
E-mail: kjcjc@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

第82回日本産業衛生学会総会開催のご案内 (第一報)

企画運営委員長 田中勇武

日時：平成21年5月20日から23日

場所：福岡国際会議場(福岡市博多区石城町2-1)

企画運営委員会では総会のメインテーマを募集いたしております。適切な案がございましたら下記へご連絡ください。

事務連絡先：

産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学研究室
事務局長 明星敏彦 (E mail: tmyojo@med.uoeh-u.ac.jp)

メインテーマの例

第80回(19年度)

「ハイリスク社会と向き合う産業保健活動」

第81回(20年度)

「人間らしい労働」と「生活の質」の調和
—— “働き方の新しい制度設計を”

九州地方会理事会報告

平成19年年度第一回理事会が、平成19年6月29日(金)午後長崎大学医学部ポンペ会館1階会議室にて開催されました。主な議題は以下の通りです。

議題

- 1) 新旧合同理事会議事録要旨案
- 2) 平成18年度事業報告及び決算報告
- 3) 平成19年度事業報告・予算案

- 4) 平成20年度地方会開催地について
(平成20年7月18日～19日 産業医大にて)
- 5) 平成21年度地方会開催地について
- 6) 第82回日本産業衛生学会総会の開催について
(平成21年5月20日～23日 福岡国際会議場にて)
- 7) 名誉会員、功労賞の候補者について
- 8) 地方会理事分掌事項案

編集後記

8月初旬、台風5号が各地に大きなつめ跡を残しました。被災された会員におかれましてはお見舞いを申し上げます。ある職場の出来事。台風は例年九州を通過するので危機管理体制が整っているかと思いきや、福岡では夕方接近との予報にもかかわらず、業務に追われて午後3時過ぎになりようやくインターネットを開いてみるとアクセスできない状態で、もちろん電話もつながらず公共の交通機関の運行状況の把握が遅れ、通常の方法では帰宅できない職員が続出し、残業者はおさまるのを待って遠方までタクシーで帰る始末に。事故につながらなかったからよかったものの、間接的な経済損失や身体への負担はいかばかりか。天候のことでまだまだ予測は難しく年に数度しかないことに加えて、どこか慣れているという感覚がありその場しのぎの対応になる。個人も含めて職場にこのような事例が散在しているなど改めて感じたところです。

さて、先の総会で平成21年度の第82回学会が福岡国際会議場で開催される予定であることが案内されました。2年先の話ですがすでに動き始めています。ゲストからホストへ。学会を両面の立場から経験する機会となり、学会活動がより身近なものになることは間違いなさそうです。九州での学会は「面白かった」、「楽しかった」と言われたい。微力ながら関心と期待をもって臨みたいものです。

第22号産衛九州いかがだったでしょうか。みなさまのご意見や身近な話題を編集委員までどうぞお寄せ下さい。(日)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成19年9月1日

編集正責任者：東 敏昭 (産業医科大学)
 編集副責任者：加藤 貴彦 (宮崎大学)
 編集委員：青木 一雄 (大分大学)
 青山 公治 (鹿児島大学)
 石竹 達也 (久留米大学)
 市場 正良 (佐賀大学)
 永田 耕司 (活水女子大学)
 永野 惠 (熊本保健科学大学)
 日笠 理恵 (福岡県市町村職員共済組合)
 山城 愛子 (沖縄県産業看護研究会)
 吉積 宏治 (産業医科大学)
 (五十音順)

(編集事務局連絡先)

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所
作業病態学研究室 (担当：中村、吉積)
TEL (093)-691-7471 FAX (093)-601-2667
E-mail: saneikyushu@pumpkin.med.uoeh-u.ac.jp